

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている C: やや不十分である  
 B: おおむね達成できている D: 不十分である

学校名	佐賀県立太良高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できる授業」の実践を合言葉に、学び直しの授業ではIT副教材を導入することで、生徒一人ひとりに合った教材が提示ができ、きめ細やかな対応ができた。</li> <li>教科担当者が学習用PC、電子黒板などを効果的に活用し、より視覚的に教材を提示することで、わかりやすい授業の実践ができた。</li> <li>生徒会を中心に主体的な活動に取り組む機会が増え、生徒が少しずつ自己表現をする力を身につけ始め、自信を深めている。</li> <li>HOT Challenge等のボランティア活動に参加することで、生徒が積極的に地域住民との交流を深め、地域課題の解決に取り組んでいる。</li> </ul>
------------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>インクルーシブ教育を通して、他者を思いやり、多様性を認め合うことのできる豊かな心を育み、すべての生徒が安心して学べる学校の実現を目指す</li> <li>太良町との協力的な学びや体験活動を通して、主体的に関わり、共に生きていく心を育て、地域社会に貢献できる人材を育成する</li> </ul>
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>強みを伸ばし、自立したいと強く願っている生徒</li> <li>地域に積極的に関わりたいと思っている生徒</li> <li>社会に貢献できるようになりたい生徒</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>強みを伸ばし、自立したいと強く願っている生徒</li> <li>地域に積極的に関わりたいと思っている生徒</li> <li>社会に貢献できるようになりたい生徒</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域と連携・協働し、創造する力を育てる教育課程を設定します。</li> <li>様々な体験活動を通し、主体的に行動する力を育てる教育課程を設定します。</li> <li>他者を認め、自己を知るために、教育活動の中で、互いに学び合う場を設定します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>答えのない問題に向き合い、新たな価値を生み出す創造力を育成します。</li> <li>自分で考え、主体的に行動する、責任ある行動力を育成します。</li> <li>他者を尊重し、対立を克服する調整力を育成します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動など地域と協働した教育活動</li> <li>ICT活用やAI副教材を導入し、学び直しの学習支援から希望進路実現のための学習指導までをサポートする個別最適化された教育活動</li> <li>学校行事、特別活動、総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動等のすべての学校活動において、主体性を高め創造力を育成する教育課程</li> </ol>

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)			実施結果
●学力の向上	○生徒個々人の能力や特性に応じたきめ細やかな指導の充実	○授業研究週間の年間2回以上の実施 ○ICT機器等を活用した授業を心掛けた教員90% ○1年生の授業を中心に、AI副教材「すらら」を活用した「学び直しの時間」を取り入れた授業を実施した教員80% ○授業評価アンケートの中で「授業内容が分かった・理解できた」と回答する生徒が80%以上を目指す。	・生徒の特性に応じた声掛け等の授業改善ができるように、少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、リメディアル教育を推進する。 ・プリント教材の精選や、ICT機器の効果的な活用を進め、生徒の学習への動機づけを図る。 ・生徒の学力は様々なため、AI副教材「すらら」を活用することで、生徒1人ひとりの学力にあった学習を定期学習会や家庭学習の課題等で主体的に学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ・授業プリントの精査を行い、全員が分かる、できる授業を行う。 ・授業のまとめとして振り返りアンケートを実施し、理解の定着度を確認する。生徒がつまづいた箇所を具体的に把握し、次時に授業に役立てる。	A	・班活動やペアワークなどの少人数指導や、チームティーチングにより、安全や個々の特性に配慮しながら実験や活動を円滑に行うことができた。 ・AI副教材「すらら」の活用や、プリント教材とポイントに関連付けるなど、ICT機器を活用し、生徒の学習理解が促進されるように心がけている。 ・班活動やペアワークなどの少人数活動で指導や支援を行い、生徒の学習理解の促進を図った。 ・生徒一人ひとりの習熟度や特性を把握し、きめ細やかな支援を行うことができ、安心して学習に取り組める授業づくりができた。 ・授業でのICT機器の効果的な活用や、授業プリントの工夫などを通して、生徒の興味関心を引き、学習意欲を高めることができた。 ・授業プリントも分野ごとに冊子にすることで生徒にも見通しを持たせることができた。	A	・授業参観をさせて頂いたが、プリントなどの教材が工夫され、また、ICT機器を活用され、生徒にとってわかりやすく楽しく授業を受けていた。とても素晴らしいと感じた。	教務主任 進路指導主任 各教科主任		
	○多様な評価方法に対応できる指導方法の研究実践	○多様な学び(UDL)の研究に取り組んだと回答した教員90% ○生徒が「授業が分かり易い」と回答した割合が85%	・「主体的、対話的で深い学び」の実現のための教材開発・授業実践を推進する。 ・「できる授業」を推進するため、他教科の授業参観等による授業研究会を年間2回以上実施する。	A	・「できる授業」を推進するため、他教科の授業参観等による授業研究会を9月に実施した。この期間に限らず、日頃より教科・科目の枠を超えて、お互い学び合い、授業改善につながる取組に繋げる。 ・電子黒板への提示や掲示物のルール等を先生方で共有できている。 ・基礎学力を試す「基礎力診断テスト」を実施し、生徒の変化や成長を確認する機会を作ることができている。	A	・電子黒板への提示や掲示物のルール等を先生方で共有できている。 ・授業研究会やすららの活用など多様な学び(UDL)の研究を実施し、授業公開週間にて、成果を発表することができた。 ・基礎学力を試す「基礎力診断テスト」を実施し、生徒の変化や成長を確認する機会を作ることができている。	・学校としては、オンライン授業の強化月間を設けることも検討している。 ・メタバースやオンライン授業を実施することは、太良高校にとって、とても大事である。オンライン授業のための通信環境を整えることも大事である。	教務主任 ICT活用推進リーダー 進路指導主任	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育推進教師を中心とする道徳教育推進のための研修会を1回以上実施する。 ○Q-U等を活用した生徒面談1回以上実施 ○外部講師による情報モラル教育(人権・同和教育)講演会を年1回以上実施	・人権尊重のための講演会を実施し、HR活動等で実生活につながる指導をする。 ・客観的な検査指標を利用した生徒理解を推進する。 ・月1回以上の教育相談委員会や学年会等で生徒(特性)理解をし、支援を検討する。 ・SCの活用を通して、生徒の支援体制の充実を図る。 ・講演会や「情報」の授業やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。	A	・5月に人権・同和教育講演会、6月に人権学習・進路保障のHR活動を実施している。 ・外部講師による講演会のみならず「情報I」の授業内でも情報モラル教育および情報セキュリティに関する内容を常に取り扱い、SNSの正しい向き合い方を学び、加害者にも被害者にもならない方法を理解し、トラブルに発展しない人間関係の構築を身に付けさせている。 ・毎週の学年会や毎月の生徒支援委員会の中で、十分な生徒の情報共有を行い、生徒理解・特性理解を深め、支援内容を検討した上で、支援を行っている。 ・SCや外部支援機関との連携を行い、生徒の支援体制の充実を図った。	A	・年間を通して、人権・同和教育講演会や人権学習・進路保障HRおよび職員研修を計画通り行うことができた。 ・9月以降、就職や進学試験を受験してきた生徒に「受検報告書」を提出させ、不適合面接質問等の実施を確認することができた。 ・毎週の学年会や毎月の生徒支援委員会の中で、十分な生徒の情報共有を行い、生徒理解・特性理解を深め、合理的配慮などの支援内容を検討することができた。 ・SCや各外部機関との連携を行い、必要に応じて病院につながるなど実効性の高い生徒支援体制の充実を図った。 ・「情報I」の授業内で情報モラルおよび情報セキュリティに関する内容を常に取り扱い、SNSの正しい向き合い方を学ばせ、トラブルに発展しない人間関係の構築を身に付けさせることができた。	・近隣の小学校でも、いじめの認知件数はいくつか報告されている。 ・生徒の日々の変化に気づけるよう、家庭との連絡を密にしたい。生徒の意見をしっかりと聞いて対応することが大切である。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 「情報」担当者 教育相談部主任 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○佐賀県いじめ防止基本方針の理解及び組織的な対応の実践が「よくできている」と回答した教職員90%以上 ○学校生活全般に関しての面談の実施を年に2回以上	・学校生活アンケートを年2回以上実施する。 ・いじめ防止に関する保護者への啓発活動を充実させる。 ・いじめ防止に関する職員研修会を実施する。 ・日頃から生徒の様子に気を配り、面談等において生徒の話を聞く中で、学年や関係各部署で共有しながら、早期発見、早期対応に努める。	A	・6月に前期の学校生活アンケートを実施した。記載があった内容については、いじめ対策委員会を実施し、組織的に対応できた。12月にも後期の学校生活アンケートを実施予定としている。 ・日頃から、生徒の様子に気を配り、生徒との面談をこまめに実施し、保護者の方とも情報共有ができ、早期発見、早期対応ができた。	A	・前期及び後期の年2回の学校生活アンケートを実施し、記載内容についていじめ対策委員会にて組織的に対応できた。また、問題事例があった際には即時に全校アンケートを実施し早期対応することができた。 ・日頃から、生徒の様子に気を配り、生徒の話を聞く中で、早期発見し、教職員、保護者と連携を図りながら、早期対応ができた。 ・学年毎に集会を開催し、相手の気持ちを理解する重要性を繰り返し伝える対応ができた。	・個々に応じた面談やきめ細やかな対話を通じた対応など、いじめの早期発見、早期対応に今後も努めていきたい。	生徒支援部主任 各学年主任	

	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかという感じる」と回答した生徒80% ○県内企業への就業体験参加者80%以上。 ○体験学習やボランティア活動を通して、「地域の方とコミュニケーションをとることができたと感じる・どちらかという感じる」と回答した生徒60%以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・生徒が希望する職種を佐賀県内の企業に依頼し、すくなくとも4日間は従事する。 ・地域の人々と関わる体験学習やボランティア活動の実践	A	・夏季休業中を活用し、2年生対象の就業体験を実施した。78%以上が従事し、進路を考えるきっかけとなった。多くの生徒が日頃の授業とは違った体験を経験し、将来につながる活動になった。 ・1年生12名が選択科目の体験学習を通して、地域の人と密接にかかわりながら、働くことの意義や自ら考え行動することの重要性を学ぶことにつながった。 ・地域でのボランティアについて、適宜生徒に案内することで、生徒の活動の幅が広がった。 ・朝読書の時間に、「佐賀語り」を活用している。	A	・2年生の修学旅行では、他県の文化や風俗等に触れることで他を尊重する心をはぐくむとともに、あらためて自県の文化風俗等に思いをはせ、誇りを感じることができた。 ・講演会を通して、佐賀の良さや地元のために自分ができることを考えさせることができた。 ・体験学習や郷土の授業を通して、地域の歴史や産業について知識を深めることができた。 ・地域のボランティア活動の案内はその都度声掛けを行うことができた。 ・朝読書の時間に、「佐賀語り」を活用している。	A	・HOT Challengeでは、高齢者にとって若い高校生との触れ合いが、とても感謝されている。HOT Challengeでの経験を生かして、地域の福祉施設への就職につながるなど更に有難い。今後も、ボランティア活動など高校生の活躍を期待している。 ・休日のボランティアを依頼したいところだが、教職員の引率による働き方改革に逆行することになるためためらってしまう。 ・正式にアルバイトとして、高校生を雇うことも一つの方法として検討してもよいかもれない。	教務主任 生徒会担当者 各学年主任
	◎「望ましい生活習慣の形成」	●規則正しい生活習慣(起床、就寝等の時間)を身につけ、十分な睡眠時間の確保65%以上	・健康調査を年2回実施し、自己の体調管理を把握させる。 ・講師を招き、健康教育を充実させる。 ・保健日より集会等の講話を通じて、望ましい生活習慣の啓蒙を図る。	A	・前期の健康調査を1回実施し、睡眠時間6時間以上の生徒が77%だった。 ・後期にも調査を実施する予定としている。	A	・健康調査を2回実施し、睡眠時間6時間以上の生徒は86%だった。前期に比べ改善が見られ、規則正しい生活習慣の確立へとつながっている。	A	・成果指標を上げている取組内容については、しっかりと評価し示す必要がある。	保健部主任 養護教諭 食育推進担当者
●健康・体づくり	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒70%以上 ●健康と食事との望ましい関係について理解している生徒70%以上 ●健康のために食生活の工夫を実践している生徒65%以上	・食事健康に関するアンケートを年2回実施し、健康教育を充実させる。 ・保健日より集会等の講話を通じて、望ましい食習慣や食の自己管理能力への意識を高める。	A	・前期の食事健康調査を1回実施し、以下の結果を得た。 「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒90%以上 健康と食事との望ましい関係について理解している生徒98%以上 健康のために食生活の工夫を実践している生徒77%以上 ・後期も食事健康調査を実施する予定している。 ・太良町総がかり教育協議会の「生活習慣100点運動」にて健康調査を実施している。	A	健康調査を2回実施し、以下の結果を得た。 「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒97%以上 健康と食事との望ましい関係について理解している生徒88% 健康のために食生活の工夫を実践している生徒83%以上 ・太良町総がかり教育協議会の「生活習慣100点運動」健康調査を実施した結果、生活習慣への意識の向上が見られた。	A	・生徒の朝食摂取率はどれくらいあるのか。学校で調査した結果を再度確認し、状況を把握しておいた方がよい。 ・生徒によっては、保護者から弁当を作ってもらっていない生徒もいるかもしれない。	保健部主任 養護教諭 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年休取得14日以上の職員を80%以上にする	・時間外在校等時間が、1か月45時間未満、年間360時間未満となるように声掛けを行う。 ・定時退勤日を設定する。(毎週水曜・金曜) ・学校閉庁日を設定する。(8月7日～15日) ・部活動休業日を設定する。	A	・定時退勤日を水金曜日とし、朝礼で呼びかけた。 ・学校閉庁日を8月7日～15日に設定し、職員の休暇取得を促進した。 ・12月末までに14日の年休取得を職員に呼びかけているが、10月末時点で、34%の取得率である。また、時間外在校時間が80時間/月の職員が1名存在しており、今後もワークライフバランスの重要性を呼びかけ、快適な環境づくりを推進していく。 ・部活動休業日については、各部活動とも適切に取得できている。	A	・冬季休業中の学校閉庁日を設け、職員の休暇取得を促進した。 ・12月末までの14日以上年休取得率を34%(10月末時点)から、54%に増加することができた。 ・衛生委員会を毎月実施し、職員の時間外在校等時間の削減について検討することができた。 ・今後もワークライフバランスの重要性を呼びかけ、快適な環境づくりを推進していく。 ・部活動休業日については、各部活動とも適切に取得できている。	A	・部活動の顧問をしている職員の休暇取得は、どのような状況か。土日の振替休日を取得するとなかなか有給休暇を取得するまでいかないのではないかと。 ・平日に授業がある際の休暇取得は手くいくのか。休暇を取得できるような工夫をしていただきたい。 ・業務が一人に集中しないような業務バランスに心がけてもらいたい。	管理職
●特別支援教育の充実	○学習面や生活面で様々な困り感を抱える生徒へのきめ細やかな支援や相談の充実	○学習面や生活面での支援を受けることで困り感が軽減されたと回答した生徒の割合が70%以上 ○生徒の情報共有の徹底	・授業におけるUDLに基づいた教育的配慮による教育課程 ・特別教育支援員による通常の学級での支援を必要とする生徒に対する補助的な支援 ・月1回以上の生徒支援委員会や週1回の教育相談部会を通して生徒理解や支援を推進する。 ・個人面談(4月)、生活状況調査を実施し、生徒の学校・家庭での状況を知り、学年団との情報共有を図る	A	・週1回の校務分掌会議における情報共有は、生徒支援に大きく役立った。 ・月1回の支援委員会では、生徒情報スライドを作成し会議をスムーズに展開することができた。 ・週1回のSC、月1回のDr来校は、職員の生徒対応に非常に参考になっている。	A	・週1回の教育相談部会、月1回の生徒支援委員会を実施し、情報共有や支援員と担任との役割の明確化を図り、対象生徒の個別支援を合理的に実施することができた。 ・週1回のSC、月1回のDr来校により、保護者を含め病院受診の繁ぎを果せた。 ・個人面談や生活状況調査を実施し、生徒の状況について、教師間で状況共有を図ることができた。	A	・家庭でのトラブルなど生徒では解決できないような内容に関して、つなげる仕組みをつくっていただければと思う。委員の方でも何か協力できることがあると思っている。	保健部主任 教育相談部主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を85%以上、教職員の割合85%以上 ★県外からの入学者数8人以上	・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・地域連携型の教育プログラムを実施する。 ・生徒委員会により、生徒が主体的に学校運営に携わるようにする。 ・学校説明会等で本校の特色を提示できるよう、積極的な広報活動を行う。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。	A	・地域連携教育や委員会活動等により「学校の一人だと感じている」85.3%、「挑戦する人に対して応援する雰囲気がある」83.3%という結果であった。一方で「この学校を中学生に進めることができる」62.7%と低く、原因の究明を急ぎたい。	A	・中間評価では挑戦できる環境を活かしきれていない状況であったが、後期のアンケートでは「目標や当事者意識を持って挑戦している」が87.4%と0.7ptほど伸び、「地域に尊敬している・憧れている大人がいる」も前年から3.8ptほど伸びていた。地域と連携した学校の魅力作りができていると考えられる。 ・県外からの入学者数が9名と達成することができた。	A	・県外からの入学希望者はどれくらいいるのか。太良高校の魅力をもっと発信し、県外からも太良高校に入学する生徒が増えることを望んでいる。 ・諒早方面への広報活動を更に強化することで可能性が広がると考えている。	企画研修部主任
○広報活動の充実	○魅力的な情報発信の継続 ○中学校、保護者、地域社会から信頼を得るための取組の推進	○学校通信「HOT通信」の月2回以上の発行 ○学校説明会、体験入学、オープンキャンパス参加者へのアンケート調査結果による満足度80%以上	・掲載内容を精選し、充実した内容で学校の魅力をPRできる学校通信を発行する。 ・生徒会や委員会活動で、中学生に向けた体験的な企画を実施する。 ・広報部によるSNS等の活用で、学校の魅力を積極的に発信する。	A	・学校通信の発行とHPへの掲載は月2回以上の更新ができている。また、体験入学等の満足度は96%であった。今後も多くの人に向けて、学校の魅力発信を継続していく。	A	・学校通信の発行等を月に2回以上継続することができている。また、学校説明会やYouTube、HP等に掲載することで、広く学校の様子を知ってもらう機会を作ることができた。	A	・学校のホームページ掲載では、閲覧者も限られているので、関係各施設のホームページ掲載の活用を検討してはどうか。	企画研修部主任
○通級指導の実践	○自立活動の理解と実践 ○計画的な情報発信の実践	○自立活動の基礎知識に関する周知率80%以上 ○自立活動選択者の授業満足度80%以上	・月1回以上の通級指導委員会を通し、生徒に関する情報を共有する。 ・自立活動に関する教職員研修会を実施する。	A	・月1回の通級指導委員会では様々な意見交換が交わされており、学年や分掌の枠を超えた情報共有がされている。 ・自立担当者会では教員間での情報交換が生徒支援に活かされている。	A	・月1回の通級指導委員会では生徒の状況把握や支援の推進に繋げることができた。 ・自立活動をテーマとした職員研修会を実施し他結果、事後アンケートにおいて98%の教員が特性への理解できた。また生徒の状況把握が向上し、日々の生徒支援に活かされている。 ・自立活動の授業後の振り返りでは、90%以上の生徒が、自己理解が深まったと回答し、より生徒の自己理解が得られた。	A	・通級の授業を拝見し、場の雰囲気づくりが良くて、生徒が伸び伸びと授業に参加していて、とても素晴らしいと感じた。 ・太良高校にとって、通級指導は、とても大切であり、学校の最終評価ももっと自信を持った評価にしてよいと考える。	通級指導担当者

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり	<p>6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)</p> <p>・「できる授業」の実践を合言葉に、生徒一人ひとりに合った教材が提示ができ、きめ細やかな対応ができた。教科担当が学習用PC、電子黒板などを効果的に活用し、より視覚的に教材を提示することで、わかりやすい授業の実践ができた。 ・メタバースなどオンラインを活用した教育実践の取組に向けて、環境整備を整えることができた。来年度は、文科の研究発表もあるため、研究実践を更に進めていきたい。 ・生徒会を中心に生徒が主体的な活動に取り組む機会が増え、少しずつ自己表現をする力を身につけ始め、自信を深めている。来年度は、創立50周年事業もあるが、生徒会が活躍する場面をつくりたい。 ・HOT Challenge等のボランティア活動に参加することで、生徒が積極的に地域住民との交流を深め、地域での課題解決にも取り組むことができている。 ・選択制授業や体験学習など、本校の特色を学校通信の発行やSNS等での情報発信により伝えることができているが、更に県外での学校説明会など、広報活動を強化していく。</p>
--	---